中学校　保健体育科　授業案

１　薬物乱用と健康

２　本時の目標

・薬物乱用は、摂取によって幻覚を伴った激しい急性の錯乱状態や急死などを引き起こすこと、薬物の連用により依存症状が現れ、中断すると様々な障害が起きること、個人の心身の健全な発育や人格の形成を阻害するだけでなく、社会への適応能力や責任感の発達を妨げるため、暴力、非行、犯罪など家庭・学校・地域社会にも深刻な影響を及ぼすこともあることを理解できるようにする。

・薬物乱用と健康について、保健に関わる原則や概念を基に整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見できるようにする。

３　展開　　　　　　：ねらい　　　　　　：学習内容　　　　　：発問・指示など

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 主な学習内容・学習活動 | 〇指導上の留意点　◆評価 |
| 導  入  ５  分 | １　グラフから薬物乱用の検挙者数を知る。（スライド１～３）  薬物事犯による検挙者数は近年、どのような状況だろうか。  ＜予想される反応＞  ・覚醒剤事犯検挙人員は減っている。  ・大麻事犯検挙人員は増えている。  ・全薬物事犯検挙人員は減っていない。  ２　本時のねらいを確認する。  薬物乱用が心身や社会に与える悪影響を考えよう。 | 〇グラフを通して、薬物乱用者が増加している現状、特に大麻事犯の検挙者数が増加している状況についてイメージできるようにする。（スライド２・３）    グラフから読み取れることや考えられることをワークシートに書き出させます。 |
| 展  開  ①  10  分  展  開  ②  25  分 | ３　薬物乱用は心身にどのような影響を及ぼすか理解する。（スライド４～19）  ・覚醒剤の乱用により、興奮し、死に至る場合もあることや連用により依存症状が現れ、やめることが困難になる、やめても幻覚が出る場合がある。  ・大麻の乱用により、記憶や学習機能の低下などが起こる、連用により依存症状が現れたり、うつ病のリスクが増えたりする。    薬物乱用をすると、心身にはどのような悪影響があるのか調べよう。  ＜予想される反応＞  ・覚醒剤には、興奮作用や幻覚作用があり、依存性が強い。  ・大麻を使用すると、学習能力が低下する。長く使用を続けると、依存症になったり、うつ病の発症リスクが増加したりする。  「10代の薬物依存患者が乱用する主な薬物の推移」のグラフから、市販薬の乱用が年々拡大していることを押さえます。    ４　薬物乱用が社会にどのような悪影響を及ぼすか理解する。 （スライド20～25）  ・薬物乱用は、社会への適応能力や責任感の発達を妨げるため、暴力、非行、犯罪など家庭・学校・地域社会にも深刻な影響を及ぼすこともある。  皆さんが生活している身の回りや社会にはどのような悪影響があるのか調べよう。  ＜予想される反応＞  ・薬物を手に入れるために恐喝や窃盗をする。  ・薬物乱用状態で車を運転して交通事故を起こす。  ・薬物乱用を止めさせようとする家族への家庭内暴力が起こる。 | 〇薬物乱用とは、違法薬物を不正に使用したり、医薬品を医療の目的から外れて使用したりすることであることを説明する。（スライド４・５）  ※スポーツの競技力を高めるために医薬品等を目的外に使用する「ドーピング」も、健康に悪影響を及ぼすことについて触れるようにする。  〇覚醒剤、大麻について、インターネットや教科書等の資料から、薬物乱用による心身への影響について調べたことをワークシートに記入させ、グループ内で発表させる。  〇違法薬物の種類、心身への影響、依存性について、理解を深めさせる。（スライド６～15）  〇市販薬の過量服薬について、考えさせ、ワークシートに記入させる。（スライド16～19）  【ICTの活用例】  ・検索機能を活用して調べる。  ◆【知識】  薬物の急性影響や依存性による影響について言ったり書いたりしている。（観察・ワークシート）  〇薬物乱用による心身への影響から、「社会にどのような悪影響があるか」について、ワークシートに記入させ、グループで考えた内容を発表させる。（スライド20）  〇薬物乱用が、周囲や社会に与える影響、薬物乱用のきっかけについて補足する。（スライド21～25）  中心のテーマから関連する言葉や内容を線で結んで広げていく「ウェビングマップ」で思考させます。    【ICTの活用例】  ・付箋機能等を活用して意見を可視化する。 |
| ま  と  め  10  分 | 5　本時の学習を振り返る。（スライド26～30）  ・薬物乱用に対して、どう考え、行動するかについてまとめる。  ・薬物乱用のきっかけは、好奇心などの心理的要因や断りにくい人間関係、広告などの社会的要因であり、適切な行動が必要である。    「誘われても、決して迷わないこと」「ハッキリ・キッパリ断る」「理由を言って断る」「その場から立ち去る」といった方法があることをおさえます。 | 〇動画の視聴や誘いへの対処方法、作成したウェビングマップを参考に、未然防止や薬物の誘惑への対処方法について考えさせ、ワークシートにまとめさせる。（スライド26～30）  【ICTの活用例】  ・動画を活用することで、生徒の興味・関心を高める。  ◆【思考・判断・表現】  薬物乱用と健康について、個人生活と関連付けて、自他の課題を発見している。（観察・ワークシート） |